

会派視察報告書

平成21年1月13日～15日

14日 京都府木津川市「旧三町の特性を生かした街づくりについて」

木津川市は、平成19年に木津町、加茂町、山城町が合併して約67,000名の市として誕生。世帯数、人口は増加傾向を維持しており、近畿地方のほぼ中央に位置する市である。合併後の市の取組について調査させていただいた。

平成20年に新庁舎を建設したために、旧庁舎の活用も検討材料の一つに数えられているが、合併協議会で積み残した課題は現在もまだ解決をみていないものが多く、他市にも見られるような合併後の問題は、ここでも確認できる。

詳細にわたった項目を一つずつあげる必要はないと思うが、特に大項目として挙げられたものは、①「公共施設の適正配置と有効活用」、②「事務事業や補助金の見直し」、③「新たな財源確保の取組」、④「一体感の醸成（地域住民、そして職員）」である。

そのどれをとっても「おらが町」意識が優先すると、解決策が見いだせなくなり、合併効果が出てこないのも、どのレベルで調整をとるかがどうしても大きな問題として出てくる。

佐賀市においても課題として残されている水道料金や学校給食の統一など、同じ課題を抱えていることで、合併効果をどのように示していくかの困難さを改めて認識するところである。また、最も効果を期待する行財政改革においては、その結果として市民に多少の不便さを与えることでもあるために、予算作成においても初年度は実施できていなかった。

ただ21年度予算においては、財政課に行革担当者を置き部単位の予算要求枠を設定して、行財政改革に取り組もうとしている。

視察終了後に、この町に建設されており、社会的に問題となった「私のじごと館」も視察。建設費用や維持費などの金額だけがマスコミで問題となり、平成22年度8月までに終了が予定されているが、巨額の投資をもって建設した当時には、その活用方法についても模索されたはずである。民間活力を導入するなどして、今後の方向性を考え直すことも必要かもしれない。

15日 広島県江田島市「定住促進事業について」

江田島市（えたじま）は、平成16年に江田島町、能美町、沖美町、大柿町が合併してできた市で、大小合わせて10の島で構成されている。今回の視察は旧江田島町役場（現支所）で、議長・副議長同席で行われた。

今回の視察調査項目は、市の総合計画による、海生交流プロジェクト「交流と定住のまちづくり」で、人口問題にどう取り組んでいるのかを視察した。テーマは「訪れてよかった、また訪れたいまち江田島の観光交流から、住んでみたい・住み続けたいまち江田島の定住へとつなぐ」

江田島市の現状は佐賀市と類似した課題があり、①人口減少、②少子高齢化、③観光客の減少・・・通過型で滞在者が少ないなどがあげられるが、一方ではスローライフや二地域居住など新しいライフスタイル志向の高まりで、空き家情報など移住に関する問い合わせも来ている。

平成18年に広島県交流・定住促進協議会の設立もあり、市でも平成19年に「交流と定住のまちづくりプロジェクト」が設定され、「江田島市交流定住促進協議会（えたじまで暮らし隊）」が立ちあげ、「交流定住促進プラン」が作成されている。

現在の取組としては、「空き家バンク」を開設し、空き家の掘り起こしを進めて、空き家の発掘や整備に努めている。これまでに13件の登録があり、定住者3件、二地区居住1件という成果を出している。

また、「おためし暮らし制度」を設立して、実際に江田島市に短期間住んでもらい、定住に向けた体験をしてもらおうとする取り組みをおこない、これまでに11件の利用者があり、2件が定住しているという実績がある。

この他にも定住サポートとしての相談窓口を開設し、19年度は95件、20年度は125件の相談を受けている。

交流人口の増加に向けては、産直市を開催し、新鮮な野菜や魚介類を販売したり、「江田島日帰りモニターツアー」などを開催して瀬戸内の島を体験するといった取組もある。

参考となる施策とその成果が着実に現われてきていると感じるものがあった。